

# アジア土木学協会連合協議会河川環境 専門委員会による「河川環境と河川生態 系のための先進技術に関する特別セッ ション」が韓国済州島で開催される

ACEMC 抽 出  
和 田 一 範 (元土木研究所)

2012年8月19日(日)から8月  
23日(木)まで、韓国の済州島で開催さ  
れた18th Congress of the Asia and  
Pacific Division of the International  
Association for Hydro-Environment  
Engineering and Research (IAHR-  
APD)において、2012年8月20日



写真1 元土木研究所和田博士による講演

(月)に「Advanced Technologies  
for River Environment and Eco  
systems」と題した特別セッションを  
開催した。会場には、アジア・太平洋  
地域の河川環境関連の研究者・技術者  
が集まり、活発な議論が行われた。  
はじめに、元土木研究所の和田博士  
より開会のおまじない「Advanced  
technologies for river environment  
management and river restoration”  
と題した講演が行われた。次いで、土木  
研究所傳田主任研究員より、「Quantitative analysis and  
behavioral modeling of land  
mammal using wild animal auto  
tracking system and individual-  
based model」と題した講演が行わ



写真2 会場の様子

れた。韓国のChung-Ang University  
の金教授より、「Development of  
Riparian Physical Environment  
Assessment Techniques」と題した  
講演が行われ、北見工業大学渡邊教  
授からは、「Observation on Flowing  
Driftwoods using Remote  
Controlled Camera」と題した講  
演が行われた。中国のTsinghua  
University Jia教授より「Study on  
four-stage construction wetland for  
river rehabilitation in typical river  
network town, Taihu Lake region”  
と題した講演が行われた。土木研  
究所村岡主任研究員より、「The  
applications of genetic diversities to



写真3 主催者の集合写真

river environmental preservation”  
と題した講演が行われた。最後に、韓  
国のサムソン電子のYang博士から  
は、「Recent nature-friendly river  
works in Korea」と題した発表が行  
われ、17時に盛会裏にセミナーが終了  
した。  
セミナー終了後、河川環境の保全・  
維持管理に関する率直な意見交換が  
なされ、将来にわたり当該分野の課題  
解決に向けて積極的に連携・協力し  
ていくことを約束した。なお、本セミ  
ナーは公益信託土木学会学術交流基  
金による助成を受け実施されたもの  
である。ここに記して謝意を表する。

# 日英土木学会ジョイントセミナー「大災害への回復力と適応性に優れた社会」がロンドンで開催される

土木計画学委員会  
藤原 章正（広島大学）  
岡本 直久（筑波大学）

2012年11月15日（木）および16日（金）にイギリス・ロンドン市内のUniversity College London (UCL)において、英国土木学会 (Institute of Civil Engineers: ICE) との共催によるジョイントセミナー「大災害への回復力と適応性に優れた社会」が開催された。

本セミナーは、土木計画学委員会に設置された持続可能な交通に関する日英比較研究小委員会が中心となり、両学会合同で活動してきた3年間の集大成として位置づけられる。ICEから Gordon Masterton 前会長、John Parry 氏、Helena Titheridge 博士 (UCL)、Taku Fujiyama 博士 (UCL) を招待し、10月29、30日に土木学会講堂に「Resilient and Adaptable Society: Infrastructure and User Responses」と題したセミナーも開催している。

この後編としてロンドンでの本セミナーの開催となり、小委員会委員長石田東生教授（筑波大学）をはじめ、藤原章正（広島大学）、兵藤哲朗（東京海洋大学）、塚田幸広（国土技術政策総合研究所）、岡本直久（筑波大学）が話題提供者として参加した。

「危機に対する社会の回復力」および「エネルギー供給減少とその対応」に焦点を当て、回復力・適応力のある持続可能な社会が本セミナーの大きなテーマであった。セミナーでは、日本の東日本大震災、阪神・淡路大震災を含む多くの事例や経験と、持続可能な社会への取組みの先端を行く英国の既存研究とを対比する形式でセッション



写真1 ICEメンバーの土木学会表敬訪問



写真3 主催者の集合写真



写真2 ロンドンのセミナー会場の様子

が構成され、活発な議論がなされた。本研究分野は、比較的蓄積が少ないため、研究者同士の交流がこれまであまりなされていないのが現状である。しかしながら、本研究集会を契機に、研究者の国際ネットワークを築く第一歩が踏み出せたと評価できる。

なお、本セミナーは公益信託土木学会

会学術交流基金およびJSPSロンドンによる助成を受け実施しました。ここに記して謝意を表します。